

11.30 新作かに料理発表！

11月30日、地元企業や飲食店などでつくる「名物料理を作る会」が「かにラーメン」、「かに料理」の新作を水木しげるロード内のまぐろラーメン本舗太陽軒で発表しました。

新商品は甲羅を丸ごと載せた「かにラーメン」や「かにシューマイ」など全11種類。どれもベニズワイガニと白ネギが入り、地元食材の味を堪能できる商品に仕上がっています。

観光客はもちろん、地元の人にもお勧めです。



12.12 思いやりの心を☆

12月12日、文化ホールで「人権ふれあいフェスティバル 2010」が開催されました。

講演会では、目の不自由なピアニストの清水紘子さんが、これまで過ごしてきた思いや盲導犬について語り、素敵なピアノ演奏を披露しました。

講演を聞いた会場の皆さんを通じて思いやりの心が広がり、人権意識が高まっていくことでしょう。

盲導犬のピアザくんはお疲れなのか講演中熟睡で、時折寝言を言って笑いを誘いました！

とんどさん

「とんどさん」は神木竹を恵方に向けて立て、「歳徳大神」と書いた赤白の幟と神輿が町内を巡行する一連の正月行事です。祀る主神、正月様・歳徳神などとも言われる「歳神」さんを、正月に家に迎えて祀り、恵方にお帰りを願う神事です。

「歳神」の「歳」は穀物、特に稲を意味し、1回の収穫に1年を要することから豊作の守り神であり、旧暦を用いる農民の農耕儀礼として小正月に行う火祭りでもあるのです。

「とんどさん」は「左義長」などと呼ばれ、左義長は大辞泉によると、宮中の小正月に青竹を束ねて立て、これに吉書・扇子・短冊などを結びつけ、囃し立てながら焼いたとあります。

爆竹の音や燃え盛る火を囃し立てる囃し言葉の「尊や尊」から「とんど」になったともいわれています。

これが民間に伝わり、陰陽道思想や道祖神信仰と結合して村境や川岸、浜辺などの一カ所に

さかのみなの



歴史

門松や注連など新年の飾り物を集めて焼きました。古くは爆竹焼とか爆竹焼と称しています。その火で焼いた餅を食べると病気をしない、書き初めの紙をこの火にかざして高く舞い上がると書道が上達する、燃え残りの神木竹を家の玄関に飾っておくと忌除けになるといわれ競って奪いあいました。また、電煤を塗りつける風習は、「とんどさん」が火祭りとして火を神聖視する、いわゆる荒神信仰が根源にあるといわれています。以前は「とんど講」集団で行ってきた「とんどさん行事」も自治会方式に変わりその伝承は簡素化傾向にあります。

昨年の境港市の「とんどさん」は27カ所で行われ、地区の若者男女が相集って新年を祝い、健康と安らぎと繁盛を燃え上がる炎に願いを込めていました。



渡町1区のとんど宮